

平成20年度 第1回鳥取市政懇話会

「市民との協働と市民サービスの向上」部会 議事要旨

日時：平成20年5月19日（月）

13：30～15：30

場所：鳥取市役所本庁舎6階 議会会議室

出席者

【委員】池原良行委員、佐々木ターミー委員、田中英教委員、田中仁成委員、仲山一成委員

【鳥取市】竹内市長、杉本企画推進部長、坂本環境下水道部長

【事務局】鹿田企画調整課長補佐、岸田

1 開会あいさつ

○**部会長** どのようにして市民の声を引き出して、それを市政にどう活かしていくかということについて、活発なご議論をいただきたい。

2 議事

○**部会長** 昨年度の協議事項について、すでに資料にあるもの以外に、何か追加事項等があればお願いしたい。

○**委員** もう少し具体的な内容があればよかった。行政と市民との協働ということについて、もう少しよく考えてみる必要がある。

○**部会長** 第3回の部会で、市の職員に外に出てほしいという意見があった。新年度から、そういった制度ができたと聞いたが、その内容はどのようなものか。

○**企画推進部長** 「コミュニティ支援チーム」について説明。(略)。

○**部会長** この部会で協議された事項が、実現されたのはよかった。

3 報告

(1)「鳥取市自治基本条例」について

○**企画推進部長** 「鳥取市自治基本条例」について説明。(略)。

○**委員** 自治基本条例の必要性、市民への周知、市政懇話会の委員から、自治基本条例の委員会のメンバーを選ぶべきではなかったか。

○**企画推進部長** 市民のみなさまに自治基本条例が浸透していないというご指摘は、おっしゃるとおり。市報での広報や、パブリックコメントなど、いろいろな機会を捉えて広報をしてきたのだが、まだ十分ではないと感じている。今後も、周知を図っていきたい。

○**委員** 行政の管理は枠にはめがちだが、枠にはめないほうが、市民もやりやすい。

○**企画推進部長** 最高法規性について、さまざまなご意見をいただいて、議会でも議論になった。日本国憲法の枠を外れるものではない。また、既に自治法等で規定されている内容も、条例に盛り込むことにより、この条例を見れば、自治の全体がお分かりいただけるようにした。

住民投票についても議論になったが、投票の事案ごとに議論する必要もあり、非常設型とさせていただきます。

○委員 自治基本条例のフォーラムに参加したが、質疑応答の時間がもっとあるとよかった。

○委員 日本人の若い人は、愛国心がないように感じることもある。日本人であることの誇りを持って欲しい。教育の中で、愛国心や日本人としての誇りについてやっていくべきではないか。

○企画推進部長 条例の前文にも、ふるさとに対する誇りについての内容を盛り込んでいる。

○委員 市と市民が協働することにより、市が発展していけば、鳥取市民であることを誇りに思うようになるのではないか。

○部会長 この条例を今後、どう実施、運用していくかが重要。市民のメリットにつながるような運用をお願いしたい。

○竹内市長 自治基本条例は、地域でどう活かすかが重要。いろんな考え方があるのは承知している。自治基本条例があって、合併後の鳥取市の考え方を分かっていたらという意味で、一歩前進だと考えている。注目度が低いようだが、10月1日の施行に向けて、さまざまなPRを展開していきたい。協働のまちづくり元年ということで、市の職員280名が地域の中に飛び込んで、公民館を拠点としたまちづくり活動を支援していく取り組みを始めたところ。自分の地域を愛するということが地域の盛り上げにつながっていく。

(2)「鳥取市快適な生活環境の確保に関する条例」について

○環境下水道部長 「鳥取市快適な生活環境の確保に関する条例」について説明。(略)。

○委員 環境教育は、幼児期から始めることが必要。成長してから学んでも習慣になりにくいですが、幼児期から始めれば習慣になる。家庭や学校での教育が重要になる。

○環境下水道部長 環境教育の重要性は認識している。学校でも、ごみのポイ捨てや資源についての教育が必要だと考えており、教育委員会と協力して進めていきたいと考えている。

○委員 地域でのあいさつ励行など、地域の連携を強める取り組みも、地域をきれいにしようという機運につながっていくと思う。ごみを拾っている人がいれば褒めるなど、お互いのよいところを見つけて褒めることにより、地域の連携を強めていくことが大事だと思う。

○環境下水道部長 市の職員も、昼休憩にごみ拾いをしている。人前でごみを拾うというのは、少し勇気がいることもあるが、ごみを拾う姿をみなさんに見ていただくことで、ポイ捨てなどに対する意識を変えていくことができればと思っている。あらゆる場面を捉えて、PRをしていかななくてはいけないと思っている。

○部会長 ポイ捨てや歩きタバコを注意するのは、市の職員か。

○環境下水道部長 2名の方に、パトロールをお願いしている。パトロールの際に、ポイ捨てなどの場面に遭遇した場合には、注意していただいて、携帯用冊子をお渡しして、PRをしていただくようお願いしている。今のところ、注意をして文句を言われたというようなことはないようだ。市の職員も、出かけていってPRをするということを考えている。

○**部会長** 普通の人が注意をするというのはなかなか難しい。注意をすると、逆に危ない目にあうのではという不安もある。

○**環境下水道部長** パトロールの方には、一目でわかるように、黄色い専用ジャージを着ていただいている。やはり、そういうものを着てないと、注意を受けた方も本気にしてくれない。

○**部会長** うちの会社の西部本社が、国道431号線の通称ケヤキ通りの環境をよくしようと、沿線の企業と「米子ケヤキ通り振興会」を立ち上げ、月に1回清掃活動を行っている。今まで、企業同士の連携がなかったのが、連携もできるし、環境美化もできるようになった。地域が一体となって、一緒にチームだという意識で取り組むと、「環境」と「市民のとの連携・協働」の両方が実現できるのではないかと思う。

○**企画推進部長** 環境美化活動というのは、子どもから大人まで参加でき、取り掛かりやすいので、よい取り組みだと思う。実際、一斉清掃など地域に根付いている。市民活動や市民参画で活躍された方を顕彰する制度を設けて、いろんな努力をされている方やユニークな活動を紹介していくことを検討している。頑張っている人に光が当たるような仕組みをつくりたい。

○**環境下水道部長** この条例にも、ボランティアで活動していただいた方への表彰規定を設けている。ボランティアで自分の意思でやっているのだから表彰はいらないのではないかというご意見もあるが、努力をされた方に光が当たるようにしたい。

○**委員** 褒める、感謝の気持ちを表すことが大切。それにより、もっと頑張ろうと思ったり、周りの人たちが学ぶということがある。とてもいいことだと思う。砂丘一斉清掃でも多くの人が集まるが、その他にも、清掃が必要な場所はあると思う。そういった場所の清掃も、ボランティアを募ってイベントとして行うのもいいのではないか。1箇所ですべてではなく、数箇所をスケジュールを組んで行ってはどうか。

○**企画推進部長** 地域の住民の方と事業所と市と組んでやるというのは、これからの手法になるのではないかと思う。

○**環境下水道部長** 海岸清掃をしたいという団体も多く、清掃後のごみの始末を市でお願いしたいという申し出をいただく。

4 その他（意見交換）

○**委員** 危機管理体制をどう考えているか。地域防災計画を市の職員は理解しているのか。

○**委員** 防災無線は入っていないのか。

○**企画推進部長** 旧鳥取地域と国府地域はないが、その他の地域は入っている。旧鳥取地域と国府地域も整備する予定。

○**委員** 実際の災害の際に、市の職員はちゃんと動けるのか。机上の空論になっていないか。

○**委員** 大きな災害が起きていないから、実践してみるの難しい。

○**委員** 一番問題なのは、地域の連携が取れていないということ。これをどのように市が指導していくか。

○**企画推進部長** 地域防災計画が策定されており、年に何回か訓練をしている。実際に、福部

などは浸水が頻繁に起きるが、対応は早い。市全体の訓練も行っているし、県や国とも連携している。今後も訓練は必要であると考えている。近頃は、テロ対策の訓練もやっている。災害の際には、行政だけでは限界がある。地域の自主防災会や消防団など地域の方々が頼りとなる。

○委員 沖縄では、台風が多く、警報や学校の休校などがテレビで放送される。鳥取では、大雪情報もテレビでは流れない。大雪で車が止まっているのを知らずに子どもを学校にだしたりしたら大変。そういう情報を随時テレビで放送するようにしてほしい。

○部会長 最近、警報もすぐにテレビに流れるようになった。

○企画推進部長 市の防災計画の見直しの中でも、避難勧告についても安全面を重視するようになった。

○委員 日本人は、危機管理意識が低いように思う。子どもたちを守るためにも、違った視点が必要。

○委員 県と相談して、車のナンバーの下1桁で、車を運転してよい曜日と運転してはいけない曜日をさだめてはどうか。

○部会長 中国が北京オリンピックに向けた取り組みの一環で行っている。

○委員 車がなくても移動できる範囲に住んでいる人はよいが、遠くに住んでいる人には無理。自動車は1時間に1本で、遅れることもある。中国と日本では違う。

○企画推進部長 過疎地の有償運送など、今は様々な方法がある。地域での話し合いが必要。それを中心になってやる人が必要。

5 次回のテーマについて

○委員 防災における地域の連携につて、地域のいろんな取り組みをだして、話し合いたい。

○委員 昔は隣組制度があった。今では、隣の人が誰かも分からない。

○部会長 では、次回は「防災活動における市民との連携」ということで話し合いたい